

みやぎきの文化を考える懇談会（第3回） 議事概要

<実施概要>

- 1 日時：令和3年10月22日（金） 14：00～16：00
- 2 場所：県庁9号館933号室

<議事概要>

（1） 前文について

- （書面会議で意見のあった）「宮崎の子どもたちが文化に触れる機会が劇的に減少している。何より子どもたちを大事にする宮崎県であって欲しい」という意見はとても大切なので、趣旨を前文に記載してほしい。
- 子どもという言葉が入ればいい、ということではなく、文化に関して格差があるので、その色んな人たちに手を差し伸べるという強い意志みたいなものが入れば良い。
- 文化芸術を等しく受けられない環境にある人を支えます、というふうに言っていたきたい。
- 格差があるので、豊かさや、文化に触れ文化をつくる楽しみ、そしてそこに一緒に参加しようというメッセージが伝わる前文になるとよい。
- 「共生」や「等しく」というようなニュアンスを入れてほしい。
- 修飾語を少し減らしてもよいのではないか。
- 「人口減少、デジタル化、グローバル化」というワードについて、（要らないのではないか／違和感はない）※両論あり

（2） 目的について

- 文化芸術により生み出される「価値の活用」という文言が、上から目線に感じられる。

（3） 責務・役割等について

- 県民の役割を規定すること、特に、「積極的な役割を果たすよう努めること」という部分が気になる。積極的に役割を果たしたくても果たせない人たちもいる。

- アーツカウンシルについて、「機能」だけでなく、「機関」としての側面を有している。地方の文化政策において要となる機関なので、きちんと位置付ける必要がある。

- 条例や理念ができたあとに、具体的に政策にどう結びついているのかということを検証したり進めていく機関が必要であるため、文化政策審議会のようなものを設置すべきである。